

5.26 図書館委託反対！

練馬区職労総決起集会に 120 名参加

集会次第

- ・高橋練馬区職労委員長挨拶
- ・小山自治労東京都本部組織局部長挨拶
- ・佐藤区職労書記長報告 「練馬区における『委託・民営化攻撃』とこれまでの取組」
- ・小形図書館分会長報告 「練馬における図書館委託攻撃について 『労使協議会と当局委託案の問題点』
- ・各区の図書館における委託導入後の状況
(1)大田区 (2)中野区 (3)港区
- ・連帯挨拶
(1)練馬区立図書館協力員労働組合 野崎委員長
(2)よりよい練馬区の図書館をつくる会 関事務局長
- ・決意表明
芳賀図書館分会副分会長 三澤図書館委託対策部会長
- ・団結ガンバロー

5月26日夜、練馬庁舎において、「図書館委託反対 練馬区職労総決起集会」が行われました。集会には120名が参加し、今後、区職労、図書館協力員労組そして住民が一体となって、委託反対闘争に取り組んでいくことを確認しました。

集会次第は左にある通りです。概要をご報告します。

冒頭、高橋委員長、小山自治労東京都本部組織局長のご挨拶をいただきました。小山氏は、都では文化施設33カ所で指定管理者制度が導入され、非常勤の人たちの職がなくなろうとしていることを話され、公共サービスを守り発展させ、職を守る闘いの先頭に立つと述べられました。

次いで、佐藤書記長から志村区政になってからの「公共サービスを民間に開放する」方針

の具体的展開と、それに対して区職労が各職場交渉とともに5回にわたる10万枚の地域ピラマキを組織してきたことが報告されました。

小形分会長からは、この間の労使協議の経過と当局の考える委託内容の具体的問題点について詳細な説明を行いました。

委託された3区の方からは、それぞれ生々しい実態が報告されました。

大田区:2002年10月に委託提案が出された。「人事と定数は首長の権限」と教育長は早々に尻をまくり、区長部局との交渉となり、地区館で[常勤11人、再任用1人、非常勤3人]という体制から、[館長1人、常勤1人、再任用2人+委託職員]という体制を押し付けられてしまった。スタッフマニュアルというものもあるが、委託職員のチーフを通じて「これまでどうやっていたか」いろいろ聞かれる。トラブルを引き継いでも、経緯が分からず、却って混乱することもある。後始末に追われ、業者の下働きをさせられているようで、ストレスもたまる。

司書率が20%から67%に上がったというが、残った区職員の中でも「もう、たまらん」と、今春異動していったものもいる。

7つの会社が1~3館受け持っているが、それぞれ違う。「レファレンスが来たらすぐに職員に引き上げ」とマニュアルと違う指導をしている会社もある。来年4年目を迎えるが、業者が替ったら「また一から教えるのかよ」という感じで、フラストレーションもたまる。委託のチーフ、サブチーフも他の自治体に転勤する人もあり、替わるとまた新たに指示を与えなければならない。

図書館の仕事はとにかく蓄積、今は書架の間を歩くことも少なく、感覚が薄れているようにも感じる。

中央館の委託提案がこの6月に控えている。委託の職員は850円の世界で働いている。組織化とはなかなかいかないが同じ働く者同士、なんとかしていきたい。

中野区：中央図書館に異動してきて7年目となる。委託を入れられて2年。非常勤の人たちが職員の三分の一を占めていたが、3年雇用止め提案を出されて、4年目に委託された。区長選挙の時、現区長は「悪いようにはしないよ」と言ったが、NPOを作らせ受託させるということだった。中央館と地区館3館がNPO、あとの5館に3社の委託会社が入っている。

3年前に中央図書館長と常勤、非常勤で「どういものが委託できるのか？」PTで協議した。受託者としての非常勤は「あれもやる、これもやる」で今、大変になっている。中央館は20人に満たない人員でカウンターをまわしている。(光が丘の事業係は常勤・再任用 非常勤の合計35人)

自身では「当局に利用されたな」という感じだ。自分が異動してきたとき、10年、20年のベテランが庁舎へ出された。委託されてもサービス水準を下げないということでやってこさせられた。

請負委託とはいっても、実際には常勤に委託「支援チーム」が結成されている。

この間、元非常勤の人たちの集まりで「労働組合は何もしてくれなかった」と言われたが、つらかった。

資料が充実したというが、必要な人に確実に届けられているか疑問だ。選書は4~5人でやっているが、質は落ちたと思う。委託前は中央館では土日には絶えず行列ができ、終了15分前には総出でやっていたが、今は応援がなくても2~3人でやっている。それでも対外的には行政評価はAである。

港区：マニュアル作りをして、今春異動した。6館ともTRCが受託した。うちは「安かろう悪かろうの委託はしない」ということで、資料費は2倍超となり祝日開館も開始した。実施後2ヶ月、これといったクレームもなく推移している。

ただ一番忙しい三田図書館は、スタッフの入れ替わりが激しくバタバタしている。

区職員はすごく忙しくなっている。委託の職員については短期雇用はなるべく避け、社会保険に加入させるよう仕様書には書き込んである。非常勤の人たちの解雇はなかった。定数33名で欠員が2名いるが、これも7月に補充させる。当初、夜間カウンターの補充として採用されてきた人たちで、週14時間が今年度から30時間となった。今後の働き次第で、残れるか残れないかということになっている。

カウンターと内部業務の無理な切り分けで、低賃金だがこれまでより多い人員で仕事をするという不合理が生まれている。これまで色々言われてきたが、これまでには少ない人員で合理的に仕事をしてきたことが分かる。

これら、他区の報告を受けた後、野崎図書館協力員労組執行委員長と、よりよい練馬区の図書館をつくる会の関事務局長の連帯のあいさつを受け、決意表明の後、終了しました。

図書館協力員労働組合執行委員長 野崎さんのあいさつ

現在、全職員の3割ほどになる64名の協力員が働いています。

「協力員の知識と経験は生かす」と言いながら、欠員補充はせず、委託やボランティアに切り替えていくという区の考え方に、私たちは愕然としました。知識と経験とは単に司書資格があるとか、図書館に勤務したことがあるということではなく、練馬区の図書館で長く勤務してきたこと、その図書館にどんな本があるか分かり、その地域の利用者が何を求めて図書館にやってくるのかなどを理解していることだと思っているからです。

今までも一年雇用で、毎年不安でしたが、今度は制度自体がなくなるかもしれないのです。既に委託の入った多くの区で、非常勤の首が切られています。私たちは雇用維持を一番に考えます

が、どんな図書館でもいいから働きたいのではなく、今まで常勤職員の方たちと一緒に培ってきた、練馬区の図書館サービスを低下させず、今以上に発展させて行きたいと考えています。

闘いはこれからです。応援、宜しくお願いします。

よりよい練馬区の図書館をつくる会事務局長・関さんのあいさつ

練馬区の教育委員会は「時代の流れ」と言って、私たちの図書館委託反対の陳情書を不採択にしました。が、1960年に練馬図書館が出来て以来、今日に至り、練馬区は蔵書数では区民一人当たり2冊弱と少ないが、貸出数では23区でトップクラスにあり、住民に愛されています。これは職員と住民が一緒になって図書館を作り上げてきたからこそであり、これこそ練馬区における時代の流れであり、優れている点です。ここに自信をもってお互いに頑張っていきましょう。

図書館委託対策部会長(練馬区職労副委員長)・三澤の決意表明

私たちは当局の委託案に対して、費用的にもサービス内容としても勝る案を対置して当局にこれまで迫ってきた。しかし、当局は理屈も何もなく「何が何でも委託の導入」とまったく聞く耳をもたない。こうした理不尽な区の姿勢を許すことはできない。

闘いを進めるにあたっての基本的な視点を提起したい。1つめは練馬の図書館がこれまでつちかかってきたサービスは低下させてはならないということ。2つめは劣悪な労働条件の労働者を作

らせない。委託職員はあまりに低賃金である。3つめは公務員の職場が委託化・民営化により軒並み奪われてきており、このままでは私たちの働く場がなくなる。一つひとつの職場で職場を守る取り組みをすることが大切である。図書館を働き甲斐のある職場、楽しい職場として守っていく。4つめは、これまでともに練馬の図書館を作ってきた図書館協力員を否定することは断じて許さない。

当局の何が何でも民間委託という姿勢がある以上、闘いは厳しいのは事実である。しかし、私たちの英知を結集して、この闘いに勝利していくことを決意表明し、集会の閉会の挨拶とします。

参加人数	
分会員	38名
分会OB	10名
区職労執行委員	14名
区職労他機関	16名
図書館協力員	21名
他労組	17名
来賓	4名